

## 私と夢と税金と

京都市立七条中学校3年 山下 真生子

みなさんに「夢」はありますか。

私の夢は、陸上自衛隊の音楽隊に入隊し、音楽の力で人々の心と生活を守ることです。そんな夢を追いかけられるのは、自分の人生が税によって支えられてきたからです。

私は生まれたとき、口唇口蓋裂こうしんこうがいれつという先天性異常がありました。唇、口の中の天井、はぐきなどが生まれたときから裂けているのです。そのままでは見た目にも問題がある上、食事もまともにとることができません。そんな私が生まれてすぐに手術を受けることができたのは、税金のおかげです。日本には、十八歳までの障害児を対象に医療費助成を行う自立支援医療という制度があります。この制度によって、本来ならば何百万円というお金がかかる手術の自己負担額を数千円ほどに軽減することができ、自治体の乳幼児・こども医療費助成の対象となれば、自己負担額をほぼ無料にまで軽減することができるのです。これらの制度で受け取れるお金は全て公費でまかなわれています。税金がなければ私は手術ができなかつたし、追いかけられる夢の幅も狭まつたと思います。税金が私の夢を広げてくれました。

中学生になり、私は吹奏楽に出会いました。楽器を吹くことも、目標に向かってがんばることも、仲間たちや先生から新しいことをたくさん学ぶことも、全てが楽しくて、その楽しさと同時に、こうして仲間や先生と音楽ができることがどれだけ恵まれていることかを感じました。私は吹奏楽部でクラリネットを吹いていますが、そのクラリネットは学校のものです。つまり私は、税金で購入されたクラリネットのおかげで、今この楽しさをかみしめることができます。そして、そもそも税金によって公立の中学校が存在していなければこの地域で暮らす仲間たちと出会うことはできなかつたし、教員の収入は税金から出ているため、税金がなければ今の先生方にも出会えていませんでした。税金は私に新たな出会いをくれました。この出会いが私を夢へと導いてくれています。

もし私が将来、陸上自衛隊の音楽隊に入隊したら、活動費や給与は国民が納める税金が財源となります。しかし中には、「国民の税金で音楽を主の仕事としている自衛隊の音楽隊は本当に必要なのだろうか。」という意見を出す人もいます。でも私は、税金はただのお金ではないと考えています。私のように、人は税金に支えられた生活によってそれぞれの夢を持てるのです。自衛隊の音楽隊は、そんな夢を与える職業です。お金のままでは与えられない夢を音楽という形にかえて背中を押してくれるものです。

だから私は、税金を「夢」にかえて人に届けられるようになりたいです。